

# カリス

カリス



Vol. 2



# 「捜しものは何ですか?」

横浜上野町教会牧師夫人  
多忙な夫を支えるかたわら  
各地で講演活動を行う  
著書に「春を持つ心」等がある

● 結城 いづみ

## 人生の忘れもの

三十代はまあまあなんとか。四十代はそれでもなんとか。五十代の私は、とんでもハッポンです。ほんとうにどうしようもありません。眼鏡でしよう?時計でしよう!お財布に鍵でしよう!出掛けに当たって、これで三、四回は玄関を出たり入ったりです。ハンドルを握ったまま、待ちぼうけにあっている夫こそいい迷惑。「まあいいさ、人生の忘れものをしなかつただけでも。」と言ってくれます。「なるほど、人生にも、落としものや忘れもの、捜しものがあるのか。」と、思いました。

## ぜいたくな悩みでしょっか

井上靖の小説「憂愁平野」の主人公が、ゆきずりに車に乗せた若い女性からこんな話を聞かされる場面があります。「結婚をして二年もすると、女は赤ちゃんを産むでしょう?そしてその後は、その赤ちゃんにかかりきりですわ。赤ちゃんを大きくも夢中になれるものを捜しているでしょう。仕事に興味におしゃれに旅行。スポーツやショッピングに食べ歩き……などなど。それもこれも、結婚生活への漠然とした不安と焦燥と退屈とに格闘するようになってしまう、といった言い過ぎになるでしょうか?」

でもこんなに「生懸命に生きて、なぜ満たされないものが残るのか、不思議といえは不思議です。捜し方が悪いのでしょうか……。」

## 捜しもの主人公は

聖書の中に、ほうきを持って捜しものをしている女性の記事が出てきます。「女の人が銀貨を十枚持っていて、もしその一枚をなくしたら、あかりをつけ、家を掃いて、見つけるまで念入りに捜さないでしょうか。」彼女があと九枚あるからいいわ、

くすると、全情熱を傾け、それから小学校へあげ、PTAに出、そしてしばらくすると入学試験で苦労し、そのうちに歳をとり、しわができ、そして退職金で家を建て、そして女の一生は終わってしまいます。「ある方が、「これは女性たちが人生の途上のどこかの地点で必ず感じる、ある悲しい感慨ではないか。」と言っています、ほんとうにそうですね。日々の暮らしが安泰なればこそ、こんなセリフも言えるかとすれば、「何をせいたくな」と言われてしまふのです。」女の一生なんて、こんなものとおぼせらぬな、とほくほくはなすのでしょっか。」

## 空しさの理由

でもなぜほくほく。「この井上靖のこのか」といふ心の問いかけは、主婦である私たちの心の底流に、いつも密やかに流れ続けていくものにも思われます。ですからこの女性たちは、いつ

といって捜さなければ、なくした銀貨は、ホコリをかぶったままになって、一枚分の価値さえなきものになってしまいます。捜すって、なんて大切なことでしょう。見つけ出されるって、なんて幸せなことでしょう。

でも、このホコリまみれの一枚の銀貨、まるで「私」という存在のよう、とある時ふと思っただのです。それまでは、あかりをつけて捜している女の人をわたくしだと思っていたのですけれど。びつくりです！「私」捜しの主人公は、私自身なのではなくて、「私」の真の持ち主であったというのですから。

## 名前を呼んで下さる神

「名前を呼ばれて人は創られていく」という言葉がありませんが、私たちはどうなのでしょうね。結婚してからというものの、「オイ」とか「お母さん」とか「奥さん」とか呼ばれている

ができるのです。

教会は、私を捜し、価値あるものとしてくださる神の愛が、聖書に照らして語られ、伝えられていく所です。あなたもおいでになって、自分捜しをなさいませんか。思いがけない宝としての人生が、きっと見つかるはずですから。



キリスト教について知りたい方は、お気軽に下記の教会へご連絡下さい。

うちに、いつしか名前を持たない存在のようになって、部屋の隅みに置き忘れられたあの銀貨のように、自分自身を見失ってきた…とは言えないでしょうか。

生活の中、すっかりくすんでしまった私に、「あなたはあなた自身でありなさい」と私の名を呼び続けてくださるお方が、実はいらっしやるのです。天にましますわれらの父、神がそのお方です。「わたしはあなたを、あなたの名で呼ぶ。あなたがわたしを知らなくても…」と呼びかけ、「わたしの目には、あなたは高価で尊い。」(旧約聖書)とまで言ってくださり、ついに、この「私」の真の尋ね人としてイエス・キリストをこの地上に遣わしてくださいました。「人の子は、失なわれた人を捜して救うためにきたのです。」(新約聖書)と主イエスご自身もおっしゃいます。私たちはこの方によって、長い間積ったほこりを払われ、磨いていただいて、私らしく輝いて生きること

*Napolis* / カリスとは、ギリシャ語で「恵み」と言う意味です。

発行●日本同盟基督教団伝道部